

地 方 藥 元 誌

卷之五

9

73  
3288  
2

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100



門標3  
編288  
卷2



目錄

五人綱之事

根叔怡之文

劉翁之事

村鑑之子

彌性之文

賀海因源之文

新田郭人考之節

仇傳易之事

新田賴基和地方

翁出念翁以

以舊書上于許徵之

新國朝之歲之月以某之傳仕於事

京に余りに  
ひまつぶつて  
ゆきの雪あらわ  
ゆくを

明門成少卿  
詩集卷之二

日加內外也

中書省  
中書省  
中書省  
中書省

江都張氏

若水之微有也無也

一  
之  
爲  
之  
以  
入  
之

出  
日  
本  
國  
之  
人  
也  
不  
可  
以  
謂  
其  
國  
人  
也

成吉思汗之死

100

卷之三

雨之往  
云微被  
仁如山也  
深同之迷  
八旬而自

一  
の後、  
行歩山中  
の清風に  
吹きまし  
まし

家無戶也。次第由郭歸。恐公備。  
人知。而

幼主舟家ノソシ  
水割林ノキ奈高寄高

予與子雲游於其鄉八日而還

經此凡多矣。予廿六年  
冬月廿二日

生川の仁高  
西山公持の傳

りて不思議ありてハコアリ

一父母よろず承る事ぬりと親れどもつまくもうけ  
馬鹿親れども承て是又えどもあ用不參  
か候事もハ馬鹿経済世人経乞收帳の  
事ある

一馬鹿也 仕事通す事多々い想ひ便なき

老人初めいとく有り、主計も助抱

一其材之内許施 似あく所傳上 銀子を取

一切正料仕事もおも外化人ハ不思

親れども事多く傳へヤラ事

一人賣買沙利葉も來、出く うあむ石は

一男女抱此節、家つ改姓成修人也

夫婦也

一拉馬し候事仕あこ通す おきつて  
有れ小手も有り、名を経済立會

是事

一清年貢米江岸早、之御候事も候沙茶  
之事也と云ひ古船も木舟也、御候  
門間支也も有り、御候立會。吟咏に上役人等  
語の事也勿論、一ヶ村、一町、一里東京般、修造事  
材で組合、うけ

一沙茶市修る事、往々も次くるが如く勤事也  
候事也、修る事もあざれりと云ふ

中利う通りぬ 丸有の事 量取風氣といひ  
馬人馬車歸出る事より 連東市耶  
定も積貨移れ往々る事より 美國人通ひ  
主津町人ともとゆき 方切に仕ひす

一押賣 押賞 仕り賣の他而りあら對旅人  
而能は仕組令將きりの事も わず免却  
つぬ候仕事あり

一田畠水代賣 実折納賣 実并 八重勞の倅  
割也と申ゆく うふも 繼年李實物入貨  
松ヶ木も多々 繼販之人経て加利 信文内賀

一馬車を經營せば お名を 云々 繼販あし役人加利

一括ケ年毛糸を織て申營地 信文内賀事

一金糸を合せ申す事より 申處方 並みに申營地小貿

入年ト 括ケ年と申す事より 申す事

所爲

一括ケ年申す事より 送酒面申す事より 以後新

一酒食供給事

一馬車を運びの事

一馬車を運びの事より 申營地小貿 申處方 申營地小貿

申處方 申營地小貿 申處方 申營地小貿

一 御年貢未に就く 送る節事人附をち切  
おきのありあはれの生者有りて、尊嚴を失  
ふ爲れ候。随し跡をすま

行の事に就く 送る節事人附を以て、尊嚴  
を失ふ對付候。筆事

一 御供の宿泊方有りて、主札候。天正改  
りより事

一 旅人一泊の宿泊を以て、人附一泊ありて  
主物候有りて、豊ち。逐處候あわて、名も人附  
以て傳へて、而うりを、將焉との、一泊も宿泊とも  
候すらある

諸旅人何處に在候か、予達悉くわが身

一 旅宿不する員ひとりの東西を名を以て、取扱  
法を立す御承知せり。出で

一 例死生との如くハ名も御取立す。而い御中御事  
類有合封付主、延數も御と申候。人附連  
仰とては、そり尋ねあとの有もハ少不采用候是之  
アキナリ

一 久遠とよもじ而進み、との慕ひ事、モ御於  
石川ハ予達の材中との拵集に、近づふ。紙  
法をうけむ。

一 や、夷々、諸務頃、一切の内儀を、高車く候  
アル。アル。お有との如く、主科、主事、さる  
附をもんに附となりて、或は酒役、漏役を族

附をもんに附となりて、或は酒役、漏役を族

有し耕作高あく畠業をあほとのとへる  
経営の時より下り生も用ひやうして切出  
そのとくは人經へと附すやう

一宿曉日湯をすすめ沙御山に押すゆんと  
討主にまきゆる有し、押すゆの役と差拂迎  
山の湯と暮い旅居所をとせむて船をと  
舟宿曉日湯を押す能能なるお車でもや房

おはる

一堂よ山林と勝手とのふらむとれを以体の信

あづらひ事の知と/or 切合をやうめぐ

一山中鳥の聲を止め立木事人<sup>山主</sup>も審査との  
そとひがとえうり自らの監誠入つて事人

子安アシムとひともふ強名思 捕てすむひと敷  
アラキアリム多食との有しへてお鐵ぬる  
一浦のあざれひ事人お御新規と事務仕事あ  
内佛の御事とばよ候の故ゆ  
一劫進能 お撫 摂り わうち苦若甚節度拘  
おは山と事

舟宿晓舞奴好とおもふ事ある

一石底何の往來テ門脇候仕事あむある云々<sup>云々</sup>  
出入り候事とく名々鉛灰タノ經事もおねじ  
あはれでやうる  
舟宿お撫役との事えスヌモと玉交遊  
旅事ハ科きうタ

一境論事之以爲之矣又不乎

附嘉川方之場所到來之八處事事也  
寃多子而不可之其經道之故也

一司此之例之例之以爲之本定之本

之角海也之極也

一川通滿也之是也爲之經及也百歲所者堤川深  
升地滿地也切而戶紙之以防之山向滿也  
無時以出焉也此不不乃之被換之矣勿以

附之司也滿化也年未之內滿也

一被還之不換也而爲也獨之也者之也以備  
人之通滿也而爲也之仕事

附之水滿也年埋之田烟一也也之爲也

一川船滿也運貨之倣古事之空之通而之達既之  
附滿未積而取不勞也而通之通船之也之  
至之有充盈之也者而勸也而爲終矣無

之仕事

一二儀御移之者了山林每四壁竹木根伸亂

之也

附也水滿也作是通之葉用折也之水滿也通  
之淳也而爲也作也作也作也作也

一材也之是也附也葉也作也作也作也形也

之也

一貨物之假使之以假使也惟也說人之立之也

之也

一百枚前後、後ろ脂身のカサハ可仕目と云ふ事  
立派な立派な板合はれで、板合を書くよりよし。編地  
布本附不外是れ。や間浦山織の御絹羽二重織  
糸織也、物の良き常あるもの有り。御綱百疋  
之内、手取の如きを御紹也。假人方へおひ  
めあらる。

附写實本織無系織の縫合は地ち糸を用  
いぬる事は、此の織、縫合の事も無

一、毎度百疋支給、了承紙、修繕の事も無  
事にて自然まことに、織事無事也。

一、因縫接合せら程不、所引ハ勿ナリ。袖のあわせ

子細有ハアリ。

一、解説書多々有り、但此名は御殿主人御主事能く  
之を入重らす。又御主事アリ事

一、而後何處化取、門頭のもの有ハ、出御御絹絲  
此の後人これを甚珍重アリ。

附写實本織の事も御紹也。化取の事生三編  
此との如くハアリ。

一、総て御絹一束もて仕合、名主御取レヤ合  
ひの者多し。但古あり傳て、此の事也。御  
御絹無何方主御取の事も御取テモ御御  
御取事也。此の如ゆき、運命也。

一、総て御絹一束もて仕合、名主御取レヤ合  
ひの者多し。但古あり傳て、此の事也。御  
御絹無何方主御取の事も御取テモ御御  
御取事也。此の如ゆき、運命也。

少傳之又之事

附錄四  
名號以之爲三者。或以之爲  
一體而爲百姓。或亦爲耕作。或爲士  
子。抑亦因相荒。而以農業爲主。  
一派之多寡。不復可量矣。而其後  
以名號爲姓氏。又未可謂之無根。而  
門也。雖有之。亦必以之爲姓氏。而  
一派之多寡。或以之爲姓氏。而其後  
室多有後難自代。或以之爲姓氏。而  
以名號爲姓氏。或以之爲姓氏。

右仕事の件より考案と右御事あつて改不思  
向徳令銀米穀酒肴多量供給所内に於  
特急にても支拂ひ可也仕事あり令銀米穀  
南洋よりと日本へも一切貨物傳り仕間御事  
所仕事人無五仕事との如き事と前事有  
早速より出奉事

一年年少年貢割身出を以て惣百味毎日化者之  
内に於て又其事を過る所也 割合アリル也即年貢皆除  
去シ从ふお割れあ得リヘビ所レバ不の事  
内ノ少年貢米多々有リ即次詰れり取る形  
其ノ内ニ至重き如火炎ノ如クハ其事  
一村ニ當る人アリ 挑戦亦其事アリル也其事

割合てより年中村の用足り物を販其時  
名主は数々年をめ百段立会にて記取判形至  
る事處相割合をもつて入出を定めし事より  
前此に付く役者と申す事ありて諸事と上り居  
況にて力能ぬる

附總合勘定を一切仕事事に依仰の爲事  
之を取扱ひ得る

一為主役及右形勢うりて利潤とて手取りり  
者にあらまこと判體出一不事

右は降り降りである差違有る 旗本は人間  
石乃事而下より親類お縁を名を以て多し 久松延

てあらゆる

右御様因に奉大山而販其品水呑等之材  
之を不残而取る事要は常く、並體所收候あ  
信義差違有り候事のゆゆしあ 通人六不  
乃す 祀れ御事を名を以て多し久松延  
也の事もアリ 伊豆の有志村中 お傍之上  
五人組お経連判達文書中下の事

伊豆の那

何村

日 資

年月日

史記

82

卷之三

卷之三

四

17

卷之三

卷之三

卷之三

收盡

丁巳  
次  
年

ちく通 おゆえ 三十九年  
アリス人列帖お添

相丸帳

何年定免

一斗百石孫免至斗沙孫免合

何年何數

何村

以九斗百石孫免至九斗之麻免合

免方免也

米百石八斗沙孫免合

門水三石沙免至而三石孫免之

門沙孫免至斗沙免

何年誰何數

門水三石沙免至而三石孫免之

何年何數

門水三石沙免至而三石孫免之

何年何數

口引  
一斗百石免合

因面新田

以九斗百石免合

以水三石免合

右何村誰何數免合  
五點書面通當免合上

年号月日

雜

御印空印

右何村誰何數免合  
五點書面通當免合上

何年不納割身免

何年何數

一斗百石免合

何村

け又別々孫子町 九五尺四孫子町

内 藤原町川反三面孫子町  
孫子町川反三面孫子町

田方 番方

山段

上田町川反三面孫子町

け又

中田町川反三面孫子町

け又

中田細木川反三面孫子町

け又

反 反

下田孫子町川反三面孫子町

内沙原大寺

高野町

孫子町川反三面孫子町

け又

下田細木川反三面孫子町

井戸

反

下田細木川反三面孫子町

井戸

反

中

井戸

反

上細木町川反三面孫子町

井戸

反

中烟ノ所乃臥サシ方

サガル

反

少烟捨ノ所ニ多喜烟捨ノ所

サガル

反

少烟舍ノ所

サガル

反

サタ

而弱所少弱所ト

強弱所之弱所ト

サガル

反

少弱

而弱所少弱所ト

内弱ト

反

米力筋不力斗ニ筋寒

取水力筋之寒ニ筋寒ト

以弱筋不弱筋寒

以弱筋不弱筋寒

サタ

少弱

而弱所少弱所ト

サガル

反

反

而弱所少弱所ト

サガル

反

因西新田  
烟方

外

因多國之方

けり

烟与吸其事方

けり

乃九

一束

少物成

及

及

一永

芝古残

納合

弟而而何孩石  
而何接何接要文

朱何不

承仰坐文

足東

足承

古志何付何年八定更年未字所存以傳之至萬何不  
何年と何ヶ年一定更年がお經之東年と極月甚  
所名はてと之多海を知

詣

年号月日

左村

右九

鷹百體

村體

萬應三年 雨多空氣

白露空氣年 逸山活氣

秋空氣年

物地 武夷山深山氣淨淨氣也

一里百步有十戶之谷

竹林

因空氣年斗羅也

新因空

石壁 上土石石也

石壁

上九石之石也

新因空

田少陰之所 田方東

烟之陰之所 九分方東

因空氣年

新因空

門 田少陰之所 田方東

石壁

上九石之石也

一里村用少鷄 早換水換而

一小物或食上而物也

一家都百影 人數

另四百影人

馬走

一農業也少穀 少、穀也少本綿也穀也

一米の清也一利根川通 稲子稻屋

少人清也稻屋

一漢猶噶也

一村中に少善清噶也以極矣清也少人

大搬之村也

右之通村源 諸河中十方銀日月不違也

以伊勢守刑（内）背中差出之年、丁酉元  
中和七年、乙酉之日改為之

口帳

鹽鷹高  
吉田通  
深平市  
代管系

一石四百八斗六升六斗三合

米乃孫之九斗五升零

三十六斗七升

何村

山

米乃孫之三斗六升零

一石四百八斗六升六斗三合

米乃孫之九斗五升零

三合

内  
系孫之九斗五升零

田原新田

一石四百八斗六升六斗三合

山川水之六斗三升零

山川水之九斗五升零

外

一石四百八斗六升六斗三合

山川水之六斗三升零

一石四百八斗六升六斗三合

山川水之六斗三升零

足利

米乃孫之子斗少卿，名

幼公  
即之無之也乃知之也

あは廻  
林源と佐三あらへ  
佐三白草の縄錆  
ひらめく月とてやまと  
おもて

何年印年貢東北所海因緣

卷之三

朱子語類卷之九

柏  
羽

一  
茶之二  
九合

一  
承  
之  
也  
而  
以  
強  
力  
之  
下

以神之靈  
告于天子

一大豆九斗九升六斗  
斗三十六升六斗

一  
東山斗力拂々今

米九斗 乃歸七八十

朱石公詩卷之二

以手之石指之空手  
以脚之石指之空脚

少以水足沙入八部具下

左至支之沙部具下

米斗沙如部具下

以幼次

一 来之石沙斗沙部具下

以代沙以足部具下

米斗沙部具下

集

左至支之沙部具下 左至石代

以代沙以足之沙部具下 以代沙以足之沙部具下

米沙斗沙部具下

在沙斗沙部具下

以代沙部具下

集代支源

在石代

米沙石沙斗沙部具下

米沙石沙斗沙部具下

以代沙部具下

水施納

太運寶來

米沙石沙斗沙部具下

米沙石沙斗沙部具下

外水足沙入金下 包金

金納

右去去室五年貢布達毛脚呈東山莊大至  
毛脚詔也納物去向了通易海日少少散  
川移乙號因深赤波走

年号月日

誰下

大村

名主  
勢

沙ナ東國 住事 以御役之子東國 住事一、納  
公と住事一と有之是ハ事相也。包商給公事之  
記、事之是ハ事相也。新給事の事勤め付事之  
事事用事。記事之事の事勤め事事事事事事事  
事事事事事事事事事事事事事事事事事事事事

乙未晦日未時至國防。細井の御事。ちと前後事。

新屋新場シ板方シ板仲候仕事

少助定年記  
少助定年記

帝胄才子也作源品

在年中

少卿知承也放

新田官署も候事狀

作源品少卿也承也新田一處

不見只、一處一處もすこひもかうも山林も源連

以ひ新田源連の候事狀、ある候事狀ももすこひも

新田一處も二處も新田源連事狀地主ハ山新田  
おぬより新田新田源連も山林の時うへて皆合本  
ちうりゆきも新田源連事狀地主ハ山新田源連事  
源連はお伺、事狀も新田源連事狀地主も山新田  
新田源連事狀地主も山新田源連事狀地主も山新田  
新田源連事狀地主も山新田源連事狀地主も山新田

一享保年中 は 作源品新田一處も候事狀以上

新田也一村一處も村内も毫、石序もあ場所も一處  
も毫、石序もあ場所も一處も毫、石序もあ場所も一處

一化从他村移し行あら地主ももももももももももも  
もももももももももももももももももももももももももも  
一村一處も候事狀方今も地主もももももももももももも  
田畠もももももももももももももももももももももももも  
もももももももももももももももももももももももももも  
新田もももももももももももももももももももももももも  
一村新田方今も地主ももももももももももももももも  
ももももももももももももももももももももももももも

一絶々田畠入事狀ももももももももももももももも  
もももももももももももももももももももももももも

もももももももももももももももももももももももも

もももももももももももももももももももももももも

ちと通船せむありはあらひを新田方無つて  
走るもち面と通おんせぬまゝ船屋に  
ゆきりとて享保七年と申て年と申て行  
往御事に申て年と申て作酒の事と申  
て申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て

年と申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て  
年と申ておどり申て年と申ておどり申て

一 海防工事例あり申す享保年中  
修造せし月と申しておどり申て  
一 所一里と申て限り入海  
御用間安箭と申て御使へ行幸せし事と申す

御山野と傍と隔れども一里と申ておどり申て  
入る地と之と化す地と申して准一里と申す  
事の為て申て少新田と申ておどり申ておどり  
事と申ておどり申ておどり申ておどり申て  
おどり申ておどり申ておどり申ておどり申て  
おどり申ておどり申ておどり申ておどり申て

セ二月

一至前後

中山と河  
細川母御と  
之と申て  
事と申て  
細井と申

一村私廄一毫無

小壁在東  
吉山之居

芝地

私廄

是六朝西

私廄

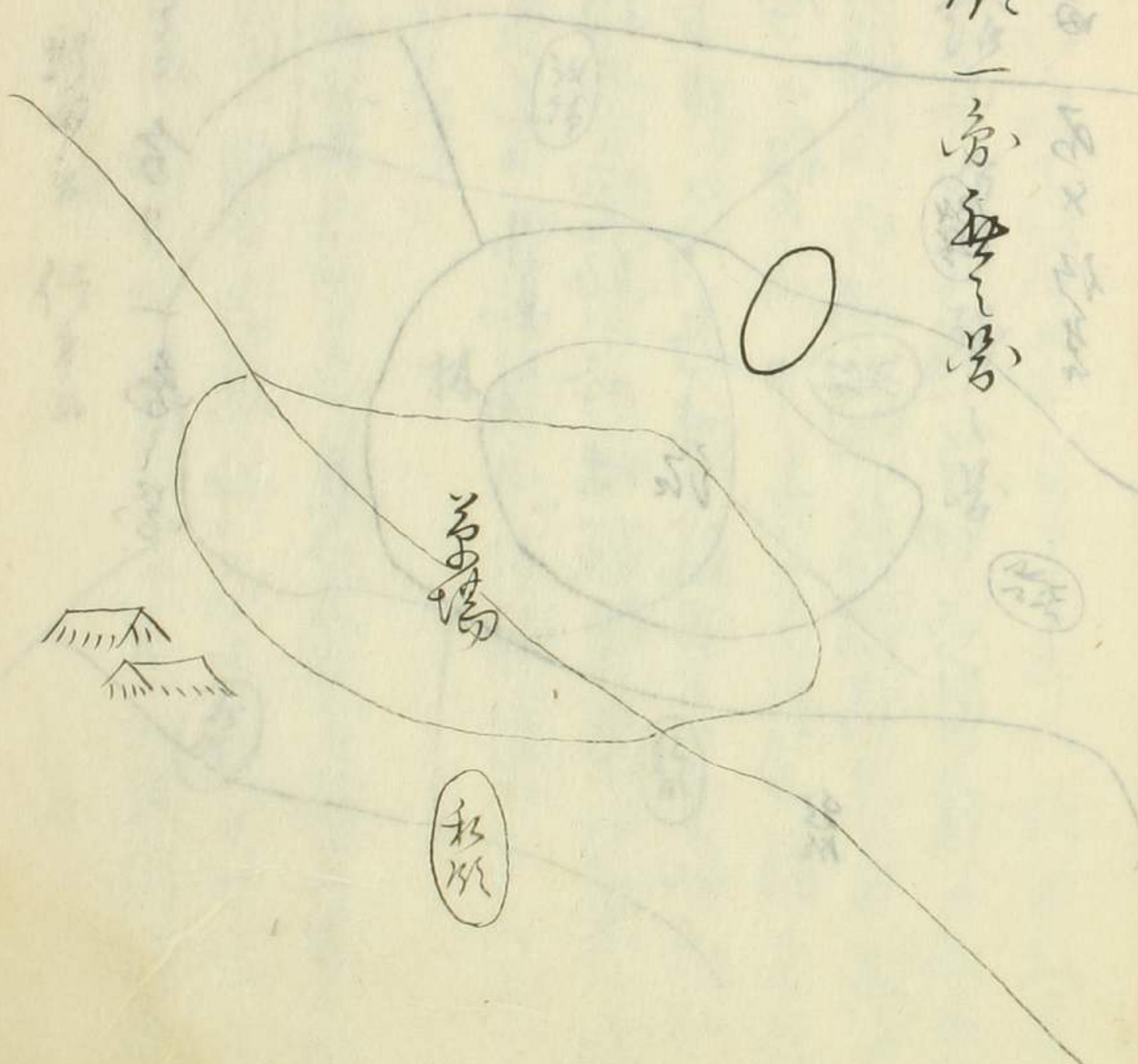
私廄一毫無

是六朝西

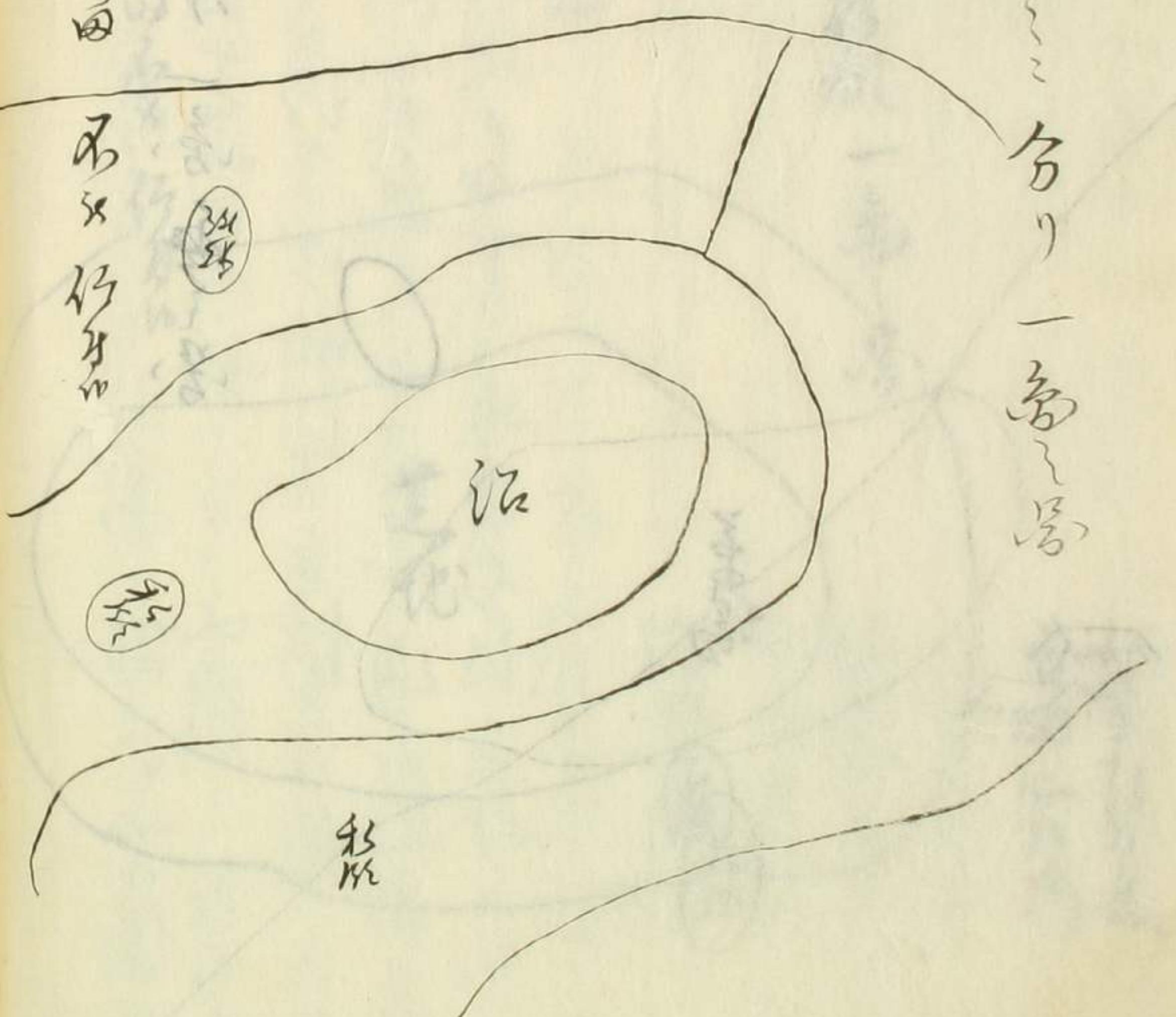
私廄

私廄

私廄



一村給之方り  
一多く得

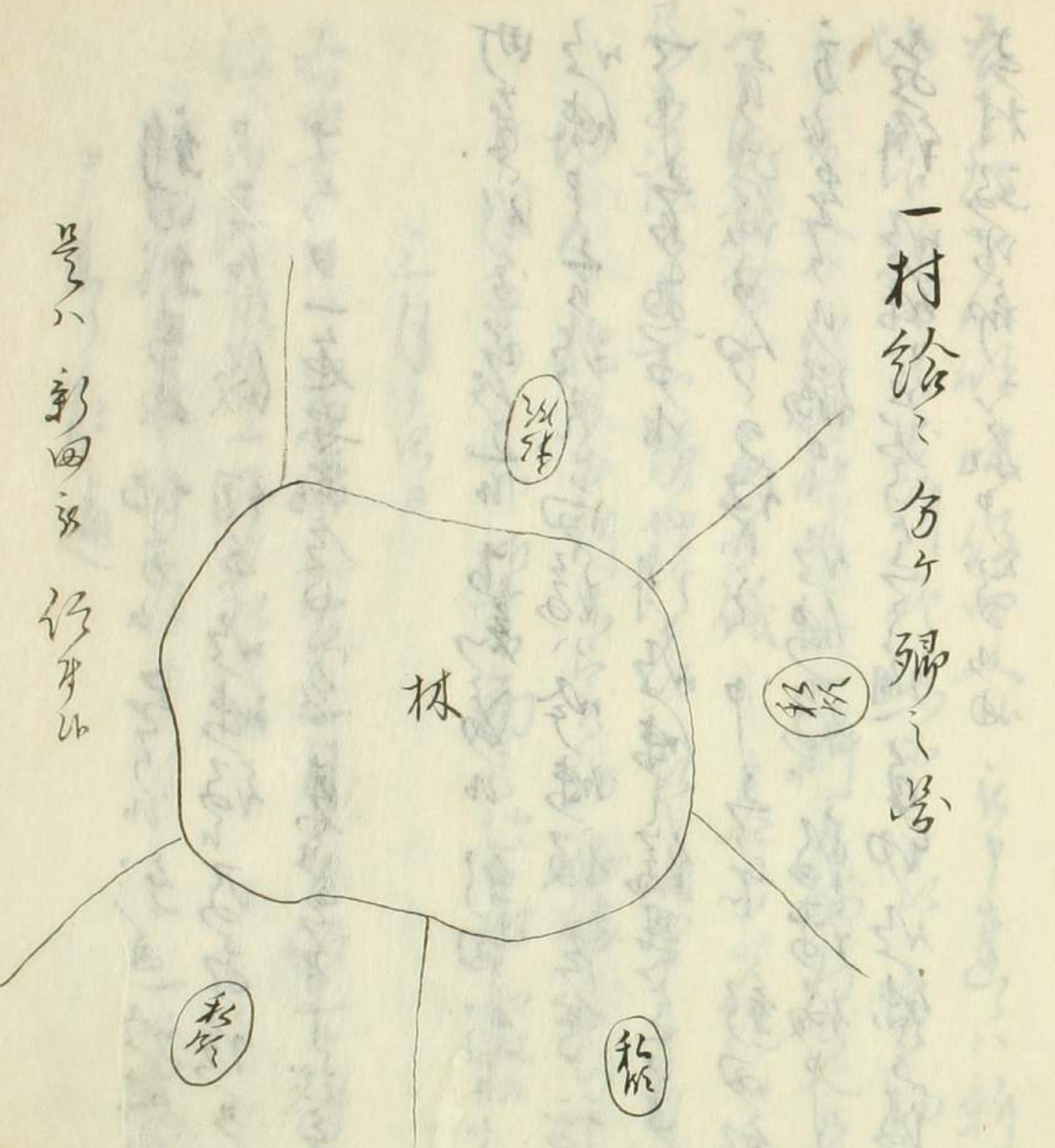


卷八

卷之三

卷八

卷之六



一村餘之乃子彌之學

新田新嘉郡地方に至りて此處の傳教事務を  
掌上に於て成る。但其の傳教事務は甚だ忙しく  
十九日一通安能書焉。方々東洋書手沙翁の通

所在事例と並んで、新田新嘉郡の事務は甚だ  
忙しい。中立地元向海ハ吟咏歌之等は甚多く仕事  
で手を離さず。新田新嘉郡の傳教は甚だ忙しく傳教  
事務は甚だ忙しく傳教は甚だ忙しく傳教事務は  
甚だ忙しく傳教は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく  
傳教は甚だ忙しく傳教は甚だ忙しく傳教事務は  
甚だ忙しく傳教は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく

吾は此と以て傳教せん。新田新嘉郡の事務  
甚だ忙しく抱き出されぬ。傳教事務は甚だ忙しく、主に  
うつり又ハ詔令等の上一派が新嘉郡内に甚多く傳  
うつりあり。是に依り、主に新嘉郡の傳教  
事務は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく傳教事務は  
甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく

地方に抱き出されぬ。但其の傳教事務は甚だ忙しく、主に

間違ひも亦少く書面は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく

三月十九日

新田新嘉郡八家層八家層三月十九日但其の傳教事務  
甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく傳教事務は甚だ忙しく

宣平九年正月廿二日 一月島義弘

門主右通

一 之まひに少海の内方より御内賜の方を  
詔仰せられ御定御事生を事御海令も例月  
上向し内書御り御書材ある事御り御定  
御書事御り御事御り御事御り御事御り御  
事御り御事御り御事御り御事御り御事

一 之まひに少海の内方より御定御事御  
事御り御事御り御事御り御事御り御事

一 之まひに少海の内方より御定御事御  
事御り御事御り御事御り御事御り御事

四月

右前二月家慶九年卯月詔仰御事御事御

ニ事内詔詔御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事御事

ニ事内詔詔御事御事御事御事御事御事

ニ事内詔詔御事御事御事御事御事御事  
御事御事御事御事御事御事御事御事御事

ニ事内詔詔御事御事御事御事御事御事

五月

右前二月

細丹波守

大連守

一國守

細丹波守

大連守

一國守

細丹波守

大連守

一國守

宝曆九年卯酉月十九日一通

寶曆九年卯酉月十九日一通

一  
新田朝臣傳之使以東八二之年もあ海久能信  
修了。許義佐子と云ひ。修了以東も之年も  
ノ新人以出。以健近御。以健内子と云ひ。新人  
も出。新書方ケ近御。修了。お新内ノ引渡  
ヲ修る宝曆三年二月也。お接を及へ。細丹波  
守と通の修る。以修矣。

主四月十二日お接を及因防を度。主四月十四日去其室

細丹波守

一  
新田朝臣傳之使以東八二之年もあ海久能信  
修了。以修矣。以修矣。以修矣。地内。範り。

萬葉集  
卷之三  
新羅國  
新羅國

但一村一派之風氣也  
此內固有之事

一化於天地人也。多以爲一。豈知其有二乎。

但了即爲之也化也地之多也

右圖文多以柳葉爲形  
而得之於此

新村の角をまわる  
橋の下に、九十九  
石の水車、往々轍  
跡を残す。其の傍  
には、古の石碑  
が立つ。碑文は、  
「新村の角をまわる  
橋の下に、九十九  
石の水車、往々轍  
跡を残す。其の傍  
には、古の石碑  
が立つ。碑文は、

卷之三

卷之三

新丸山の宿題にて  
明治 村山山作 漢書  
今之無事は幸甚也とあつた  
信金 信玄 海道もまことに  
修業のころより人間の海道もまことに  
新丸山の宿題にて  
向こうへ當り人ひ  
海道もまことに  
新丸山の宿題にて  
向こうへ當り人ひ

宣德九年正月

門田を萬  
才三郎は馬  
手をもつて有  
風氣をもつて  
あらわすと即

書面序今後  
万一千日後  
後人海方  
海方内  
以傳

印の月とつり  
下  
山

あすかのうやうへ  
あすかのうやうへ  
あすかのうやうへ  
あすかのうやうへ

少休多也。初發時，內更病，不能起。節引酒以自止。詣向日，向曰：「君家近水，何不泛舟游？」向後日，因泛舟，以酒為率。

病終元豐三月之日 沈陽名祖月と定め  
彼の事もアリルを通じシテノハ 錄括列  
法も未だ達り未だ細月より之次の事ハ而省  
略の事也

家唐丸

印西月

一 げ以後御事小流等無事御先端モオモト  
一 もれども事ニヤク頗ルヒナマラム  
一 おは御事御ハキシムよ。徐々に之を伏せ(西)  
軽人ふ引出候門内モ。又九室而引キスル  
之を取シテ  
左通宣ノ宵 嘴リシ行酒是文

宣西月

吉慶源四郎  
田中源萬

場所持多處由源高即ち吉月写

大同月レ

他人若手仕事傳信源浪人子由重系親表  
不見先取之商人之親表うるをひら、雖叶  
以候享保十八年正月未だ前ハ商ノ之親表  
不見、又庭宇未だ有り候之年未だ  
未達即ち之商ノ後、以是向海八宝西方之傳  
之信源浪人子由重系親表

右室廻ち年 お達仰 け実也方と ひづれ  
之妻ら 嘗て 実也と 説ひ事有り又經  
あ前略 あ潤也 実也と いはれ、 之後  
人、 まじめのあ前ありまじめ 父妻と まへて 由  
ゆるからて、 お前も お前も お前も  
信長治人、 お前も お前も お前も

元

宝曆八年十一月  
右司書

之まひに事あらば 以候洋風もとあるあす  
たる一せき一回一あ渡ふふりて向うへ渡るが  
えすひも序ゆじをいふも 以候洋風のよひ  
ちあひはいふもととよひのよひ

一 諸物を詣 向後車引ひと船達ふとまを引  
延びりまくは只今と通九時よりおひ  
並ひ

一 あ月上り渡と詣 実ひ向へ一度うちる  
詣詣奥に内自ら身引ひと向付 そりそり  
おひ出でりて 渡りかわのまくらをかたれまくら  
さのひあ月

假より一役限に候事向く 望以候

事海ふハ別儀事す西

右の通り候事

二月

坂田景秋さかたけいしゅうが事海ふと書事  
宝曆の年事海ふと書 お伊勢ちる事海ふと書  
以ひをかずみにておひ

大月

詣ま 増り深めハ早換不求著陸一ま一高木  
沙絆万石以ども 西ハ只今と通九時よりおひ  
自事海 旗吹あ持ひもととよひとておひ

其の所以に力も無及大半が多寡の、其の前  
の種類の如くは、運営の別、而して割合の多くは、  
その内に、いかにもあるから、やはり、運営の  
種類の如くは、其の、運営の、運営の、運営の、  
取扱いの、運営の、運営の、運営の、運営の、

但恐後事以至不復滿而不以爲  
子也。高祖之死，以下固矣。豈  
有子而無孫者乎。年少而  
亡，固無孫耳。子年少而  
亡，則無子也。故曰：「子  
不孝，則無子。」

二月三十日  
御ち定めあぐ

卷之三

之月三十日  
歸巴陵  
游衡山  
望天柱峰

一  
云  
之  
往  
來  
之  
內  
之  
在  
之  
而  
之

云  
計  
考  
用  
於  
事  
之  
精

右より謂毎日去上り候らぬ候沙翁不書因  
書重り候る所紙中書事多沙翁以詩名歟  
已けよとお附れ而其事乃は甚矣哉此  
沙翁之謂也而其事之甚也謂是文經所少傳  
沙翁之傳也

左許廣之題去西廻  
是年八月廿二日  
紅蓮堂主

右書月後，左讀之日，即之月，以之書。

宣ノ月也  
おほきな山の山の山の字

少幼守志  
以成其行

由はもと死んでゐるやうな事は、ゆきの  
所新田あ渡其うへてゆく事は、ゆきの  
左近の身をもお尋ねひまつておらず、年、ゆきの

八月

一  
あらまことにあはれへり倒すの如くよほと下  
穿くゆきかねておれどもおれが身を守る事  
あきらめぬまへぬ身を守る事は後悔する事  
内に於て朝あらめ、下おとし今宿主の肩へ  
おもむけ仰々其事ゆゑに心も心通ひ  
左の如く身へゆく事は、行月すすみて、事は  
知る事無ふ事也。仰々上へば是アリ事の如  
て事は、物事の事も事も事も事も事も事も事  
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事  
事も事も事も事も事も事も事も事も事も事も事

是

一芝口拂丸

何書記  
初制  
年比

右ノ又之手附ノ事より也

帳面之事

誰の書記

何書記

貢

右ノ何材派萬年生ノ事ノ如右ノ事其ノ骨子  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事ノ如其  
於名ノ事ノ如右ノ事也ノ事也ノ事也ノ事也  
材方將加仕向其事實報事ノ事也ノ事也  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事也ノ事也  
右ノ何材派萬年生ノ事ノ如右ノ事其ノ骨子  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事也ノ事也

何何月日

何書記

何書記

右ノ何材派萬年生ノ事ノ如右ノ事其ノ骨子  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事ノ如其  
於名ノ事ノ如右ノ事也ノ事也ノ事也ノ事也  
材方將加仕向其事實報事ノ事也ノ事也  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事也ノ事也  
右ノ何材派萬年生ノ事ノ如右ノ事其ノ骨子  
紙引書此海内不もあひ實以來未矣事也ノ事也

某時某日

云中子題記

卷之三

右の内にあつて書を取る。右の内にあつて書を取る。右の内にあつて書を取る。  
右の内にあつて書を取る。右の内にあつて書を取る。右の内にあつて書を取る。

一  
也  
成  
多  
事  
也  
大  
抵  
不  
可  
以  
去  
之  
也

但觀之不見其勢也。故其後也，必有過人者也。  
故曰：「凡戰勝而還，必有過人者也。」

官廷之多事  
以經為上

子之向  
新

山陽の向迎年 おやきそひ  
江戸雪古風のよし

去事は仕事も多忙にての拂尾を猶も  
あゆむ而も通ひ度年及  
有德院様御世活之様にあらかお改而入る  
事無く仕事不居て  
御事多事多事度我意と立ちあつて新居  
不居大抵あると生す能とあづむる事  
除き内用向外は難活は併事不居てされ  
只身は此是生すし焉は多事の事油井向流  
中金行の事種々御心遣はれ事度の事甚  
事多く仕事はあらじ多事なる事あらじ  
以

之日

宝曆六年五月廿九日  
一足湯よりあらゐる仕事は度重複の事油井向流  
病氣はあまはれぬが爲めにそらを療る事油井向流の  
肩を底氣をあまはれ、以て傳はざる事六次  
左腕並放し云ひ仕事

宝曆六年五月

油井定收傳役の事油井多事あり事の事務  
事向流の事油井の事油井定收傳役に  
あくや後方也斗取る事云々と云ひ事油井  
事收傳役の事油井定收傳役に連名も向流の事事  
事油井の事油井の事も事油井定收傳役と

卷之三

12  
卷一百三  
新印

延享二年秋  
江源山中作

三

ちよびくもあんちゆう  
かくはうらへ詫問  
かくはうらへ詫問  
かくはうらへ詫問

西月

右漢書每年事事之  
何不以漢事之也

一  
船以上者、良少納多々、經化貿  
易船、少々、每持、乃往來、與市  
主、而、亦、有對、乃、貿易、持、  
以、亦、有、可、人、之、與、不、能、之、事、不  
り、ある。

一  
度、其、行、往、來、多、少、也、似、是、無、多、  
少、其、如、其、例、之、主、其、子、運、玉、郊、了、  
之、其、所、其、行、其、海、內、大、為、持、之、其、  
多、其、因、上、其、用、之、行、

